

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ時における子ども教育福祉支援事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人 ACOBA
実行団体名:	特定非営利活動法人 スマイルクラブ
実施時期:	2021年 3月～2022年 2月
事業対象地域:	千葉県
事業対象者:	1 障がい児（発達障がい、知的障がい等） 2 中学生（バレーボール部員）

Version 3.2

日付:

2022年3月8日

I. 事業概要

事業実施概要	今回の事業では新型コロナウイルス感染症をきっかけに、上記諸課題解決のためにIT等を活用しながら、子どもたちの教育福祉支援システムを構築することである。それとともにNPOとしてのガバナンス力も向上させ、地域におけるNPOとしてさらなる貢献を目指したい。具体的には、1) 障がい児のための新しい生活様式実現のための動画を作成し、コロナ時で教室等が中断しても自宅でも支援可能な環境の整備、2) 中学校の部活動へIT等（iPadやオンライン相談等）を活用しながらの支援による、新たなオンライン型部活動支援モデル（バレーボール）の構築、3) スマイルクラブの新型コロナウイルス感染症予防のためのマニュアルの作成を行い感染の予防と対応についての環境整備をおこなう。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	1) 障がい児のための新しい生活様式実現のための動画の作成については、目標の視聴回数は1,000回をクリアすることができたが、登録者数については、目標500人に対し66にと大きく下回った。今後、この登録者数増とさらなる視聴回数増のための手法の開発が課題となった。2) 中学校の部活動へのIT等（iPadやオンライン相談等）を活用した教育支援については、参加した学校の顧問からの評価と継続についての要望は高かった。しかし、新たな練習メニューの動画作成希望や今後の継続支援方法についての課題解決が残り、資金獲得を含め今後の検討となった。新型コロナウイルス感染症予防については会員のみなさん全員へ配布し、万が一の際のスタッフマニュアルの作成と配布もおこなうことができ、感染予防についての環境整備は充実したものと考えている。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
障害者	学習機会の不足/格差	障がい児のための動画作成と配信による支援システム	配信回数とチャンネル登録人数	LINE配信（700人） 動画配信（6回）登録者数500人、YouTubeチャンネル視聴回数1,000回	LINE配信は700人全員に配信済。動画配信6回は達成。登録者数66人で13.2%、視聴回数は1,425回で142.5%でクリア	視聴回数については、地道に障がい児と保護者に今回の動画を1人1人に紹介してきた積み重ねと関係者の皆様への案内により達成できた。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	オンライン活用型部活動教育支援システムの構築	支援校数と回数	男女2校ずつで年間各6回延べ24回	男子1校、女子3校計4校で延べ28回の実施。116.7%の達成。	オンラインによる部活動支援の要望は高いことが今回の事業でわかった。今後さらに動画メニュー作成等の要望に答えられるような体制づくりが必要となった。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	新型コロナウイルス感染症予防対策の充実	コロナ対応マニュアル作成等	マニュアル50冊 チラシ1,000枚	100%達成	コロナがまだまだまん延する今日、引き続き感染予防についての充実、PCR検査等を含め高くなっているために、会員のみなさんへの案内は継続していく予定である。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	今回の事業で特にオンラインによる運動部活動支援の必要性が社会的に高いことがわかり（2023年4月から文科省として、運動部活動はIT活用や地域への移行を推進予定）今後は、このオンライン支援のさらなる環境整備を目標に活動予定である。また障がい者に対する運動動画についても、継続して案内し視聴回数と登録者数が増えるようにつめていきたい。そして、動画作成も定期的に作成し、さらにバリエーションを増やしていきたい。
考察等	上記運動部活動のオンラインによる支援についてのアンケートから、今回できなかった練習メニューの動画配信、試合分析からのチーム力の評価等の要望が上がってきているのと、部活顧問の先生方のみならず、コロナにより学校部活動ができない間でも、生徒自らが自宅等で練習できる支援方法の開発が必要であることもわかってきており、このような要望を資金獲得を含め検討してく予定である。

V. 活動

活動	進捗	概要
障がい児のための動画作成と配信による支援	ほぼ計画通り	登録者数の人数増が課題となった
オンライン活用型部活動教育支援システム	ほぼ計画通り	今後のさらなる支援方法の確立が課題となった（練習メニューの動画作成と配信等）
新型コロナウイルス感染症予防対策の充実	ほぼ計画通り	引き続き感染予防の情報発信を継続

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特にオンラインによる運動部活動支援の必要性が社会的に高いことがわかった。というのも文部科学省でも2023年4月から運動部活動支援について地域への移行やIT活用などの方向性を示していることを公表しており、今後このような動きにNPOとしても対応していく社会的必要性を高く感じ、さらなる環境整備の必要性を感じることもできたのは、想定外の大きな収穫であった。 また、今回同じ実行団体として参加した別のNPOとの新たな連携事業の可能性もでてきており、今回の事業が大きなきっかけとなった。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	上記運動部活動については、すでに文部科学省が先生の働き方改革の一環として、学校の先生だけに頼るのではなく、地域の力を借りながら部活動を支援していく方向性をホームページ等を通じ公表しており、日本全国でこのような動きが2023年4月以降に本格的に始まっていくものと考えられる。したがって、今回の事業はそのきっかけをつくることができ、スマイルクラブとしても大きな収穫となったものと感じている。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
キャリアデザイン研究所	障がい児の就労支援とスポーツ活動のコラボ事業をこれから提案中（別の休眠預金事業）

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

事業費		計画額	実績額	執行率
直接事業費		5,199,000	5,199,000	100.0%
管理的経費		0	0	#DIV/0!
合計		5,199,000	5,199,000	100.0%

補足説明	

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	該当なし
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	マニュアル50冊、チラシ1,000枚（シンボルマークは其中に掲載済）
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	上記印刷物へ反映済
4.報告書等	該当なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	すべて整備が終了し、スマイルクラブのホームページへ掲載済
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。		
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述